

A News Letter from Woody Akiba

自然な住まいを愛するニュースレター(第6号)



2003/NO6

松田 妙子さんの住まいづくりの基本理念 「家をつくって子を失う」

この助平ババア！

原宿の表参道から一本奥にはいった閑静な住宅街での出来事です。「坊や、ズボンのジッパーがあいていますよ。」と半ズボンをはいた子供に声をかけました。当然、恥ずかしそうな顔を見せるかまたは「ありがとう」と言ってくれるかな、と予期していました。二人の間隔が数メートル離れたとき、松田さんは、大きな声が自分をめがけて飛んできたのに驚きました。そして、耳を疑いました。「この助平ババア！」これが子供が発した言葉です。このショックで、松田さんは悩みました。住宅産業に身を置いていた松田さんは「よい住まいとは何か、どんなに住宅のつくりや設備がよくてもそこに住む家族のコミュニケーションや家庭教育がなされていなければ意味がない」と考えました。そして、よい住まいとはどうあるべきかを人々とともに考えたいと念願して「家をつくって子を失う」を書きました。「住食足りて礼節を失う」の観を呈した家族関係や子供たちのありさまに危機感を覚えて住居の住まい方の見直しを提言しました。それが、「地域に根ざした住まいづくりの基本理念」です。

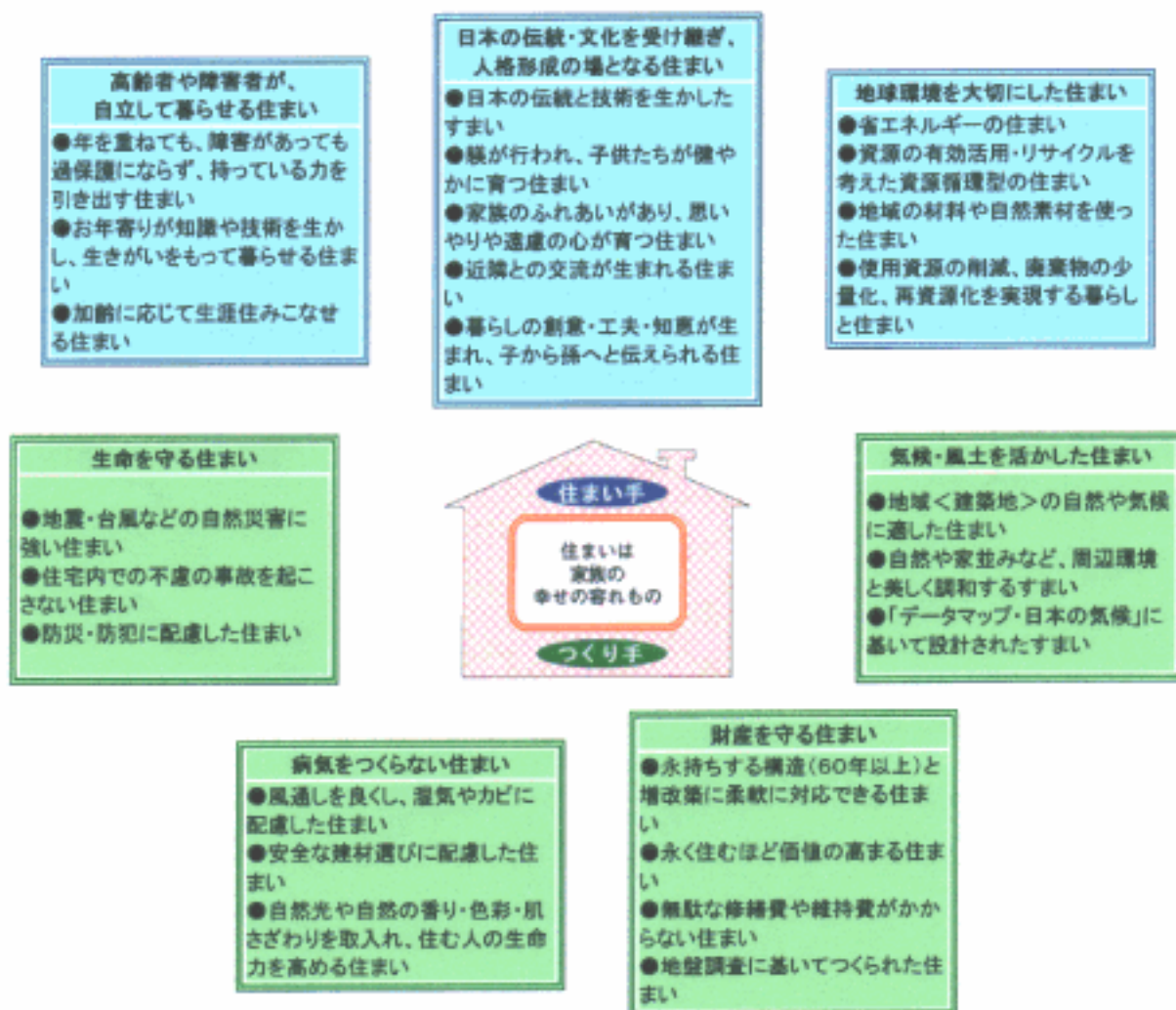
今回は、いい家づくりには性能や快適さよりも前に、社会と切り離して考えることができない、家づくりの基本があると考えて、この松田さんのエピソードを紹介させていただきます。私にとって尊敬する方であり住宅産業研修財団、生涯学習開発財団の理事長として活躍されています。

地域に根ざした住まいづくりの基本理念 (松田妙子さん)

日本の伝統文化を受け継ぎ、
人格形成の場となる住まい
地球環境を大切にしたい住まい
気候・風土を生かした住まい
財産を守る住まい
病気をつくりたくない住まい
生命を守る住まい
高齢者や障害者が自立して暮らせる住まい

残念ながら、松田さんについて、この紙面では詳しいことまでご紹介することができません。もしご興味がありましたらホームページをご覧ください。または私にご連絡ください。アドレスは「住まいづくり七つの理念」<http://www.hic.or.jp/concept.html> です。松田さんは「QBC優良工務店の会」を組織して七つの理念を大切にしたい住まいづくりを行っています。こちらのサイトでは著書も紹介させています。ちなみに優良工務店の会という名称は商標登録済みであり、この団体だけがこの名称を使うことができます。

地域に根ざした住まいづくりの基本理念



(財)住宅産業研修財団 理事長 松田妙子作成

A News Letter from Woody Akiba

ディズニーランドでのとってもいいエピソードをご紹介します

2003/NO6



その1
社会人として大切なことはみんな
ディズニーランドで教わった。

香取貴信さんの著書より

「社会人として大切なことはみんなディ
ズニーランドで教わった」
シンデレラ城ミステリーツアー

20分にも及ぶナレーションを憶えられ
ないまま、初めてのガイドに行くよう指
名された香取君は、半分もしゃべれず
、まともなツアーガイドの役割を果たせ
なかった。それでもゲストは「お兄ちゃん
がんばれ」「ありがとう、がんばって
ね」と声をかけてくれた。香取君は、ゲ
ストに申し訳なくてただ頭を下げ、涙を
流すばかりだった。

その後、ガイドにも慣れてきた香取君
は、本来変えてはいけないナレーション
を、「ゲストに笑ってもらおう、一番う
まいガイドになろう」という思いから変
えてしまっていた。ところがなぜがゲスト
に受けなかった。でもそんなはずは
ない、と考えていた。

と、ある日、新人のガイドと代わるよう
に、そして後ろからついていくように指
示された。終わった後、Oさんの「どう
？うまかったでしょ、今の香取君よりう
まかったでしょ」という言葉に香取君は
「どうして？」という反感が湧いた。どう
しても納得できない香取君は、帰り際、
無視するOさんにその「意味を教えて
欲しい」と迫った。するとOさんはこう答
えた。「いいか香取！ガイドに必要なの
はうまさじゃない。俺たちは演技の勉
強もしたことのない素人なんだ。へたで
もいいから、一生懸命やることなんだ
よ！だからゲストも感動してくれるんだ
よ！」

一生懸命さを失っては感動など生まれ
ない。スタッフの一生懸命さがディズ
ニーランドを支えている。私たちも一生
懸命にやることできっと誰かに、きっとど
こかにつながっていく、そんな
感動を与えてくれました。香取さんあり
がとう。

発行者

「自然の住まい研究室」
秋葉 建設(株) 秋葉忠夫
289-2163八日市場市南神崎52-1
電話0479-72-0814FAX0479-72-0824
電子メールakibakk@rapid.ocn.ne.jp
URL <http://www1.ocn.ne.jp/~akiba/>

その2
ワールドバザールの一角にある人気の
レストラン、イーストサイドカフェでの出来
事です。ある日若い夫婦がやってきました。
キャスト(ディズニーランドでは役柄
ことをこう呼ぶ。ここではウェイター)は二
人用の席に案内して注文をとりました。
二人のゲストはそれぞれが食べるであ
ろう食事以外にもう一品料理を頼みまし
た。「お子様ランチをください。」というゲ
ストの言葉に、応じたキャストは当惑
しました。

ディズニーランドのマニュアルではお子
様ランチは9才未満の子ども以外には
出せないことになっていました。キャスト
がそう伝えると、二人は寂しげな視線で
互いを見つめ合いました。キャストは勇
気を出して、そのお子様ランチを誰が食
べるのかを尋ねました。

「今日は昨年亡くなった娘の誕生日なん
です。私の体が弱かったせいで娘は最
初の誕生日を迎えることもできませんで
した。おなかの中にいる時は主人と3人
でここのお子様ランチを食べにいこうね
って約束してたのに、それも果たせま
せんでした。それで、今日は娘にお子様
ランチを頼んであげたくて参りました。」

その言葉にキャストは言葉を詰まらせま
した。そして、次の瞬間、キャストは二人
を別の席に案内しました。そしてさらにそ
こに子ども用のイスを持ってきました。も
ちろんそこにお子様ランチが持ってこら
れたのはいうまでもありません。
「どうぞ、ごゆっくりお楽しみください」
キャストはそう言ってテーブルを後にしま
した。

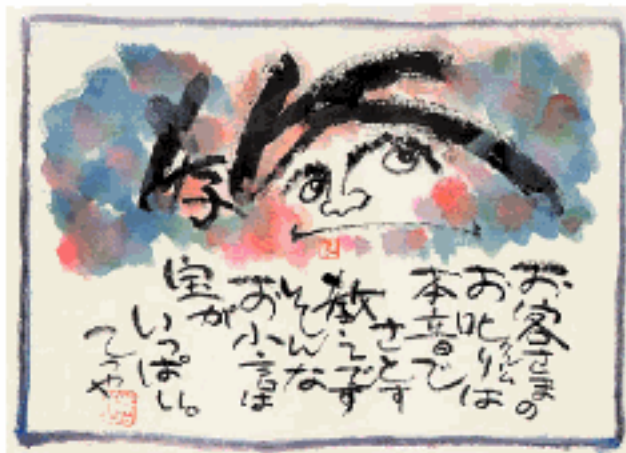
本来、このキャストの行為はマニュアル
違反です。しかし、それをとがめたキャ
ストも上司もいませんでした。それどころ
か、この話を仲間にしたところ、誰もがそれ
に協力してころよくお子様ランチを出し
てくれたのです。

このキャストの行為はその後、ほかのキ
ャストにも「こんな良いことをした仲間
がいた」と称えられました。

その夫婦からは感謝の手紙も届けられ
ました。ディズニーランドはそれを社内報
でキャスト全員に知らせただけでなく、指
示板にまでその手紙をはり出しました。

マニュアルで決められたことよりも、そ
の行為がゲストを幸せ(ハピネス)にでき
るのであればキャストはマニュアルを破
ってでも実行する、という勇気が称えら
れた出来事でした。ゲストに感動を与え
ることを最大の目標とするディズニ
ーランドならではの感動的な話ですね。香
取さんのエピソードといい、それだから、
ディズニーランドはゲストに感動を与え
られるのですね。(このエピソードは「ディ
ズニーランド心理学」山田真さん著より
ご紹介しました)

プレゼント！



これまで、プレゼントは
「プロトハウス・建築家とすすめ
る家づくりシリーズ」
「失敗しない後悔しないリフォー
ム会社の選び方」
「木のハガキペレゼント」
「地熱利用のCD-ROM」
を行ってました。

今回は「むげん哲也」先生の書
いた人生訓？はがきをお送りしま
す。

ご希望の方は、家についてのお考
えやこのニュースレターについて
の感想を添えていただけますよう
お願いします。

ご連絡は、左記まで、私は留守を
することが多いためできれば、FA
X・ハガキ・Eメールにてお願いで
ければ幸いです。

次号は、リフォームについて書
いてみたいと思います。

次号も読んでいただける方は左記
までご住所・お名前・ご連絡先をお
知らせ願います。お便りお待ちしております。
ご感想をお寄せいただいた
方には感謝のしるしとしてこもった
お便りをあげちゃいます。

